学校行きにくい子に光を

松阪市に「原田積善会」が1000万円寄付

ICT教育支援強化

松阪出身の実業家、原田二郎（一八四九～一九三〇年）が設立した公益財団法人「原田積善会」（東京）が創立百周年を記念して松阪市に一千万円を寄付した。十日、市役所で贈呈式があり、世古潤壹良（じゅんいちろう）理事が竹上真人市長に目録を手渡した。（鎌倉優太）

不登校の小中学生や外国人の子どもらに向けた寄付で、情報通信技術（ICT）を活用した教育支援に充てられる。小中学生や未就学児ら約六十人が利用する市子ども支援研究センターの運営の四施設に、タブレット端末やディスプレー、プログラミング教材、問題集などを導入する。

世古理事は「ICT教育は学校に通う小中学生には及ぶが、学校に行きにくい子どもには行き届かない」と語った。このほか、高校などに入学する生徒については、給付型の「市原田二郎奨学金制度」で別途、支援している。

竹上市長は「光の当たりにくいところに光を当ててくれた。高額なこともあり、しっかり結果を出さないといけないという責任感を感じている」と述べた。

積善会はこれまで、社会福祉や教育分野に三百二十三億円を寄付しており、そのうち松阪市への寄付は三十億円以上に上る。寄付金は済生会松阪総合病院の設立や郵便、学校、警察署などの整備に使われた。

原田は殿町に生まれ、二十三歳のころ上京。旧大蔵省の役人を経て、三十一歳の若さで横浜第七十四国立銀行の頭取に就任した。その後も大手銀行の再建など財界で活躍し、七十二歳のころに全財産を出して原田積善会を設立した。殿町には功績を紹介する原田二郎旧宅がある。



世古理事㊨から目録を受け取る竹上市長＝松阪市役所で

黄緑色の新茶 初摘み

大台 例年より人員縮小で

茶どころ、大台町で十五日、新茶の初摘みがあった。神瀬にある町茶業組合の茶園七ヶ所で、炎い黄緑色の新芽を、組合員らが摘採機のエンジン音を響かせながら次々と刈った。

露地栽培してきた茶園こ三月十日、ビニールをかぶせて温度管理などをし、露地ものより二週間ほど早い初摘みとなった。例年、地元住民らも参加して六十人ほどで手摘みしているが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、組まり、販路が狭まってきている」と不安ものぞかせていた。（西村孝規）

多気で発電所運営 企業が基金を寄付

町に3回目

多気の「町松阪東R クラブ創 松阪市の松 ークラブ（R 日、クラブの を記念して、 会などを通じ 多気町の児童 の家」に遊具 贈られた 昌美会長（六二 の岡山修大理 録が手渡され 設に入ってい 木製遊具。R 立てて防腐剤 贈呈式では 人も出席し、 年のお祝いと 寄せ書きを地 った。岡山理事長＝多気町で


地主会長㊨から

同社は二〇 寄付しており、 年度分で三回目 役場で贈呈式を が、新型コロナ 感染拡大を受け りやめた。 寄付金は、

みだかのうた

〈お兄ちゃんのお誕生日〉
（丁寧語にこだわっています）
孫（妹）　おプレゼント　お
いいですかね？
はっとり・ちとせ（4）＝四日
小牧町、祖母・服部美幸